

広報

おおず

2026

11

No.262

【特集】世界に踏み出し、見つけたもの



10/3(土)愛媛FCマツチシティが開催されました
(関連記事10ページ)

世界に踏み出し、見つけたもの

～ 中学生等海外派遣事業 ～



オーストラリアで学んだ12日間

大洲市では、(公財) 榊山教育振興会の協力を得て、中学生などを対象とした海外派遣事業を実施しています。この事業は、海外の文化や歴史、生活習慣などを肌で感じることで、国際化時代にふさわしい次代を担う人材を育成することを目的としています。

今年度は、中学生12人と市内の県立高校に在学する高校生2人を、7月27日(月)から8月7日(金)までの12日間、オーストラリアに派遣しました。生徒たちは、現地の学校での授業や8日間のホームステイを通して、語学を学ぶとともに、現地の人々との交流を深めました。

令和8年度 大洲市中学生等海外派遣の行程

7月27日(月)	市役所で出発式 松山空港から羽田空港へ 羽田空港からシドニー空港へ
7月28日(火)	早朝にシドニー空港着 観光 (オペラハウス、セントメアリー大聖堂など)
7月29日(水)	ウェントワース・フォールズへ移動 観光 (スリーシスターズなど) 研修先の学校へ移動 (オリエンテーション) ホストファミリーと対面・各家庭へ移動
7月30日(木)～ 8月5日(水)	通学 (キンドルヒル・スクール) 午前：英語レッスン 午後：授業参加※土・日はホストファミリーと交流
8月6日(木)	午前：英語レッスン 午後：日本文化の発表、フェアウェルパーティ (お別れ会) シドニーへバスで移動 シドニー空港から羽田空港へ
8月7日(金)	羽田空港から松山空港へ 大洲着



オペラハウス

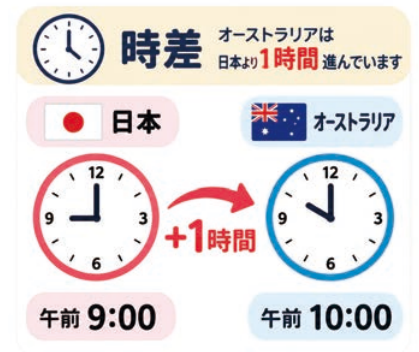


スリーシスターズ

訪れたまちはどんなところ？

生徒たちが滞在した「ウェントワース・フォールズ」は、オーストラリア・シドニーから西へ約100km、ニューサウスウェールズ州の世界遺産「ブルー・マウンテンズ地域」の中にあります。

町の近くには、雄大なウェントワース滝があるほか、近隣にはブルー・マウンテンズを象徴する奇岩「スリーシスターズ」もあり、一帯は雄大な自然を楽しめる観光地として知られています。



季節は日本と反対で、7月～8月のオーストラリアは冬です。また、時差は1時間で、日本より1時間進んでいます。

生徒たちが学んだ「キンドルヒル・スクール」

キンドルヒル・スクールは、ウェントワース・フォールズにある学校です。2000年に開校し、ドイツを中心に活躍した思想家ルドルフ・シュタイナーの教育思想を基礎としたシュタイナー教育※を取り入れています。



※シュタイナー教育とは
知識を身に付けることだけでなく、芸術や自然との関わりやさまざまな体験を通して、子供一人ひとりの個性を尊重し、創造性や感性を育むことを大切にしています。



吉岡 ^{あみ} 愛心 さん
(大洲北中学校)

ホストファミリーと一緒に見に行った滝は、思っていた以上に迫力があり、とても感動しました。一人っ子の私にとって、ホストファミリーの姉弟と過ごした時間は、これまでにない素晴らしい時間になりました。

また、初めて飛行機に乗り、CAさんを間近で見ました。背筋がすっと伸び、スタイルも良く、とても眩しかったです。笑顔が素敵で、何かあればすぐに駆け付けて寄り添う姿や、英語で話す姿が格好よかったです。これからもっと英語を勉強し、将来CAになるという夢を叶えられるように頑張ります。

京森 ^{さな} 沙凪 さん
(新谷中学校)



ホストファミリーはキリスト教徒で、日曜日の朝に教会へ行きました。教会は想像通り神聖な感じ。礼拝では、ホストファミリーや参加している人と一緒に讃美歌を歌い、聖書のお話を聞きました。全て英語なので、内容を理解することは難しかったです。貴重な体験となりました。

礼拝の後には、参加者が持ち寄ったサンドイッチやお菓子を囲み、パーティーのような交流が始まりました。教会は厳粛で静かにする場所だと思っていたので、とても驚きました。



谷浦 ^{ひまり} 妃里 さん
(長浜中学校)

毎日、ホストファミリーと料理を作ったことが印象に残っています。庭で摘み取ったハーブや野菜をふんだんに使ったサラダは定番メニュー。トマトやパプリカ、タマネギなどを煮込み、そこに卵とチーズを入れて作る北アフリカ料理の「シャクシュカ」。お弁当には、ベーグルやパイを持って行きました。私の家では、あまり食卓には並ばないものがたくさんあり、毎日の食事が楽しみでした。オーストラリアでは、いろいろな国の食文化が取り入れられているということが分かりました。

武智 ^{みなみ} 未菜美 さん
(大洲高校)



現地の生徒とは、日本のことを話したり、日本語を教えたりしました。言葉が違っても「相手を知りたい、伝えたい」という気持ちがあれば仲良くなれることを実感しました。

ホストファミリーとは、一緒にピザやおにぎりを作ったり、ゲームをしたりして楽しく過ごしました。日本の料理を作って喜んでもらえたことも嬉しかったです。

現地の学校生活や食事、自然、休日の過ごし方などを体験し、自分の「当たり前」が、世界では当たり前ではないことを学びました。





すばる
兵頭 昂 さん
(大洲南中学校)

今回の経験を通して、英語は学校の授業で勉強するだけでなく、実際に人とコミュニケーションをとるためのものだと感じました。そして、完璧な英語でなくても、自分から話し、相手のことを知ろうとする気持ちが大切だと学びました。勇気を出して話しかけ、笑顔や身振り手振りを交えることで、相手との距離を縮めることができました。

この経験は、これからの自分にとって大きな財産になりました。これからもここで学んだことを忘れず、何事にも積極的に挑戦していきたいです。



そうすけ
富永 宗佑 さん
(肱東中学校)

現地では初めての経験ばかりでした。学校では先生が英語やオーストラリアの歴史を教えてくれ、伝統的な料理を自分たちで作って食べました。昼休みには大好きなサッカーを通して現地の友達と交流しました。ホームステイ先でも食事を共にし、ボードゲームで遊ぶなど、充実した日々を過ごしました。

日本とは違い、広大な自然の中で、みんなが伸び伸びと過ごす姿が印象的でした。食事の量に最初は驚きましたが、帰国後に家のご飯を見たときには少なく感じるほど、現地での生活になじむことができました。



みさき
森田 美咲 さん
(大洲北中学校)

現地の学校では、昼食前に軽食をとる「モーニングティー」の時間がありました。日本にはない文化や伝統があり、自分たちとは違う考え方に驚くこともありましたが、英語を聞いてすぐに返すことが難しく、会話に間ができることもありましたが、相手が理解しようとしてくれるからこそ、「自分からもっと話してみよう」と思い、積極的に話すようになりました。

この海外派遣事業に参加して、コミュニケーションを積極的に取って互いに理解していくことの面白さや異文化を認め合う大切さが分かりました。



りこ
瀧本 莉瑚 さん
(大洲東中学校)

特に心に残っているのは、ホストファミリーや学校の先生、友達と英語でたくさん話をしたことです。自分の英語が伝わるか、うまく会話ができるのか不安でしたが、優しく話してくれ、私が伝えようとする言葉にも真剣に耳を傾けてくれました。その中で、「英語を完璧に話すこと」だけが大切なのではなく、「相手に伝えたい」という気持ちを持つことが大切なのだと気付きました。

言葉が違って、身振り手振りを交えながら、一緒に笑ったり楽しんだりすることができました。言葉の壁を越えて人とつながることができた経験は、私にとって大きな自信になりました。





一人でのホームステイだったので最初は不安でしたが、ホストファミリーはとても優しく、英語も聞き取ることができたので、だんだんと不安はなくなっていきました。学校はとても自由で、パンを焼いたり、みんなでバレーをしたりと、さまざまな体験をしました。お別れの日には、みんなと写真を撮ったり、連絡先を交換したりしました。一人でホームステイしたことで、相手が何を話しているか一生懸命聞き取り、発音にも気を付けながら話すことができました。この経験を通して、英語力を伸ばすことができましたと思います。

山崎 愛真 さん
(大洲南中学校)



梅木 菜々子 さん
(肱川中学校)



白石 葉望 さん
(大洲北中学校)



この派遣事業では、見るものすべてが新鮮で、今までに味わったことのない感覚でした。初めて海外を訪れた私にとって、オーストラリアで目にする光景は何もかもが輝いて見えました。

特に大きな学びは、「積極的にコミュニケーションを取ることの大切さ」です。自分から声をかけ、ホストファミリーと会話ができるときは、言葉にできないくらいうれしかったです。現地の学校でも、思い切って声をかけたことで、趣味の話で意気投合できる友人ができました。自分から話のきっかけを作るのはとても難しかったですが、一歩踏み出せたときの充実感はひとしおでした。

今回私は、自分の英語がどのくらい通用するのか確かめたいと思い、海外派遣に参加しました。英語を聞き取れなかったり、うまく言葉を返せなかったりしましたが、諦めずに表情やジェスチャーを交えながら、自分の思いを伝えることができました。

現地みなさんに日本の文化を知ってもらうことにも挑戦。得意な書道を生かし、ホストファミリーと書道を楽しみました。まず私が漢字を書き、それをまねして書いてもらうと、笑顔で楽しんでくれて、とてもうれしかったです。日本の文化を伝えることができ、私にとって大きな一歩になりました。

生徒たちの成長を感じた12日間



引率 大洲北中学校
松下 洋人 教諭

海外派遣事業を終えた今の感想は、「本当に参加して良かった、素晴らしかった」の一言です。ホームステイ初日は緊張していた生徒たちも、日が経つにつれて表情が柔らかくなり、生き生きと活動する姿を見せてくれました。現地の生徒たちはとても明るく気さくで、日本に強い関心を持って温かく話しかけてくれました。おかげで生徒たちの緊張はすぐにほぐれました。

授業に意欲的に取り組む姿や、折り紙や福笑いなどの日本の遊びを一生懸命教える姿、「世界に一つだけの花」を堂々と歌う姿はとても頼もしく、誇らしく感じました。

今回の経験を一度きりにせず、今後も海外を訪れることで視野を広げ、人としてさらに大きく成長してほしいと願っています。多くのみなさんの温かい支援により、無事に海外派遣事業を完遂できたことに、心より感謝申し上げます。



この海外派遣を通して、特に心に残ったことが3つあります。

1つ目は、日本との文化や習慣の違いです。自分にとっての「当たり前」が、海外では当たり前ではないことに気がきました。2つ目は、景色の素晴らしさと現地のみなさんの優しさ。3つ目は、英語が完璧でなくても思いは伝わるといことです。言葉に詰まり、うまく文章にできないこともありましたが、知っている単語をつながげながら、一生懸命伝えました。うまく伝わらず悔しいこともありましたが、伝わったときには大きな達成感がありました。



あさひ
井上 朝斐 さん
(大洲北中学校)



みか
柴田 美香 さん
(大洲高校)

ホストファミリーとシドニーへ出掛けたり、ほかの家族と合同でハイキングしたり、学校では直火でパンを焼いたり、日本ではなかなかできない体験をしました。

ホストファミリーと過ごすうちに、だんだん距離が縮まり、別れの日には、1週間しか一緒に過ごしていないことがうそのように思えるほど、とても寂しくなりました。

今回の研修を通して、英語が好きになり、「もっと頑張らなくては」と思いました。次はもっと英語のスキルを上げて、またオーストラリアを訪れたいです。



あかり
谷浦 朱梨 さん
(長浜中学校)

現地の学校では、みんな自由に性別や年齢に関係なく、誰とでも気軽に話している姿が印象的でした。日本では自分の意見を発言しづらいとすることがありましたが、意見を出しやすい雰囲気があり、積極的に発言している姿がすてきだなと感じました。

ホストマザーには、「失敗を恐れず、遠慮なく自分の気持ちを伝えてほしい」と言ってもらいました。そのおかげでいろんな人との会話に挑戦することができ、現地の友達ができました。「伝えよう」という気持ちがあれば、なんとかなる！ということも分かりました。

道も空も人もどこまでもつながっている「育心拓夢」 いくしんたくむ

7月27日羽田を離陸し、28日シドニーへ。夜明けの飛行機の窓から見える果てしない空と大地。ドキドキとワクワクの始まりである。派遣生にとって、日本とは異なる言語や文化、食、生活習慣などと触れる未知なる体験。オーストラリアの空と大地はとにかく広い、食べ物はデカイ、物価は高い。そして、人々はフレンドリーで親切だ。

ホストファミリーは、派遣生を家族のように大切にしてくれた。約10日間生活を共にしたホストファミリーとの別れは特別なものとなった。ハグと肩を組んで記念撮影。人々の温かさ、涙、涙、涙。

派遣生は、家族と離れての生活でさまざまなことを感じただろう。この体験がこれからの人生のプラスとなり、自らの生き方を見つめながら、自分らしく新しい扉を開いてほしい。それが家族への感謝の近道になるだろう。今後の活躍に期待したい。

[I hope to come back again.]



引率 長浜中学校
としひろ
鎌田 淑博 校長